

1. 教育の責任

文化的事象に関する豊かな教養と共に専攻分野における学術的専門性を身につける、広く国際的な視点から異なる文化を多角的、多元的にとらえる広い視野と考察力をもつ、自ら問題を発見し解決を導く主体的・能動的学修を促す、という国際日本学部のめざす教育方針にそった人材の育成に実践的な学習を通じて努める。

2. 教育の理念

考古学という時代・地域を問わず物質資料から人間の営為の歩みを考察する学問を通じて、歴史、文化、国際関係、言語など人類の営為が生み出したさまざまな文化現象を教育研究の対象とし、文化についての深い洞察力と豊かな教養を身につけ、異文化に対しても広い視野をもって尊重し理解することのできる教養豊かな人材を養成するという国際日本学部の目標に沿った教育を行う。

3. 教育の方法

遺跡や遺物という具体的な資料から過去人類の活動、歴史の歩みを復元してゆく「論理の流れ」への理解と、論理的に説明する能力の取得を目標として段階的な教育を進める。まず考古学の資料や調査研究の実態についての「関心」を導く講義として「考古学の扉」「考古学入門」「考古学からみた信仰と祭りの日本史」など幅広い学生が受講する入門的授業を設け、さまざまな時代のさまざまな遺跡・遺物に接することを通じて、学びへの志向性を引き出す。各種の考古資料に多面的に接する機会を設けるための教材を工夫する（プリント・動画・WEB教材）。これらを基礎として、専攻生へには実際の遺跡・博物館見学を重視する自ら資料を調査・検討し、文章としてまとめて発表する機会を多く設ける。（ゼミナール・卒業研究）。

上の目標と講義内容をシラバスで提示し、基本的に教材は独自に作成したプリントや資料、既存の動画教材を利用している。また質問を奨励し、遺跡・博物館の見学を盛り込んだ講義内容も提示。

成績評価は①学習内容への理解の深度と、それを論理的に説明する能力を重視し、できる限り「文章を書く」ことを課題にする。講義時間内ないし自宅での学習として、調べて・書く課題を与える。知識を整理し、物事のつながりを意識した理解を定着させると共に、受講生の本当の理解度をはかる手段としても有効と考えている。

4. 教育の成果

- * 考古学への関心をもたせるという点では各講義の最初の役割は達成できている（授業アンケート）。
- * 指導を重ねて、理解内容を整理して文章にまとめる課題は多く与えている（ゼミ発表資料 卒業研究提出物）。

5. 改善への努力と今後の目標

- * 関心を持った上での次の学習意欲、自分で調べ、理解を進めてゆくというステージに達しない受講生が多い。強制でない、自主的な読書・資料の調査へと向かわせる方法については模索中である。
- * 遺跡・博物館の見学の機会をさらに活用し、実践的な活動の中で「自分で調べてまとめる」力をもつ学生を増やしてゆきたい。

【添付資料】

- ・シラバス
- ・配布教材プリント
- ・オンライン教材（音声付きパワーポイント）
- ・ゼミナール・卒業研究提出物
- ・学生アンケート結果